

広島県合唱連盟加盟団体とその各グループに所属されているみなさま。また、未加盟であっても歌うことが好きで、合唱を続けてきていらっしゃるみなさま。

私たちの生きるこの世界を襲う、今のこの事態について、改めて書くことはしません。しかし、三月以降の3ヶ月間の、なんと味気なく、辛い日々でしょうか。長く歌い紡いでこられた方も、歌い始めて間もない方も、歌えてきたことの「ありがたさ」、「幸せさ」をかみ締められていることと思います。

広島県合唱連盟では、ここまでに今年度事業である、「2020年度課題曲講習会」「第43回全日本おかあさんコーラス中国支部広島大会」「第59回広島県合唱コンクール」を中止し、「平和と希望のコンサートⅢ」の延期を決めて参りました。また、各合唱団においては、演奏会をはじめとして、日々の活動も止められてきたことでしょう。

合唱という行為が、感染を広げる可能性のひとつであることから、この決定はやむを得ないことであったと思います。しかし、その決定にも様々なご意見があったらと推察いたします。何が正解か全くわからない状態ですから、手探りであることが、大切なのであろうと思います。

今、私たちに当たり前であった日常は失われてきています。『朝の来ない夜はない』という言葉があちこちから聞こえてきます。本当に、そうであってほしいと、心から願わざるをえません。

今、日本では少しずつ社会が動き始め、その中で「歌う」ことも始まろうとしています。これに対しても様々な意見があり、正解はないと思われそうですが、突っ走ることは間違っていると思います。あくまでも、冷静に足下を確認しながら、慎重に動き始めましょう。『今、「(コロナへの対応について)やり過ぎだ」ということは全くない』という気持ちで進むことが、正解なのではないかと私は考えています。

小学校、中学校、高等学校で歌い続ける若い皆さん、皆さんは凶らずも今、「苦難の時」を過ごすことになってしまいました。このような時であっても、歌う気持ちを忘れないで、歌う仲間同士のつながりを大切にしていってください。放課後のどんなに短い時間でも、『くちびるに歌を』持たせ、歌う仲間を増やし続けましょう。みんなで、ひとつずつ小さな灯を持ち寄らしましょう。

若い人たちの歌う歌は、ちょっとだけ早く生まれた、私たちの全てを勇気づけるに違いありません。それは、きっと私たちの生きる糧となるのです。

この混迷の時が定常に戻るものが、いったいつになるのか、私たちには分かりません。どのような未来が待っているとしても、私たちは常に「心に太陽」を持ち続けていきたいものです。Stay Home が馴染んできている皆さんも、時が来たらどうぞ心の灯を赤々と燃やし、炎として高く掲げていきましょう。その気持ちを持ち続けることこそ、私たちの未来につながるのだと思っています。

アフターコロナには、広島県合唱連盟は、みんなで歌い合える、『復活の場』を創りたいと考えています。その灯が遠くにでも確実に燃え続けている日々を送っていきましょう。

2020年6月2日 広島県合唱連盟理事長 福原泰弘